

福山市立大学の子育て支援研究会

2021年度の活動によるHP

子育て支援研究会

[ホーム](#) [講義動画](#) [お役立ち情報](#) [お知らせ](#) [お問合せ](#) [🔍](#)

福山市立大学

妊娠期からの子育て支援研究会

研究会の概要

この研究会は福山市立大学教育学部の教員が中心となり、福山市ネウボラ推進課と連携しながら妊娠期から出産後の親子を応援するために立ち上げたものです。この研究会では、妊娠中から子育て中のお母さんやパートナー、そしてそのご家族に対する支援に関する研究を進めており、ワークショップを実施中です。ここでは、その様子を動画で配信しています。

研究会メンバー紹介

正保 正恵（しょうほまさえ）

研究代表者

福山市立大学教育学部 教授

専門：家庭科教育・家族生活教育



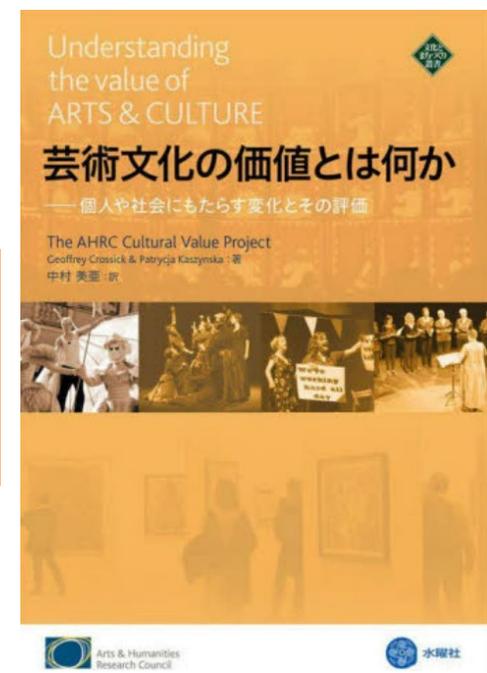
本ワークショップの目的

実践の下敷き

Geoffrey Crossick , Patrycja Kaszynska※(2022)

Art & Care に関心を持つ教員がそれぞれの専門を生かしながら、**一般の方も対象にして**連続講座を開いた

大学と地域の行政が連携した異分野グループによるパイロット的ワークショップの参加者に The AHRC Cultural Value Project の研究成果に基づく「**個人の内省**」, 「**アイデンティティ**」, 「**主観的幸福感**」などの項目について感想を求めた



※ Geoffrey Crossick , Patrycja Kaszynska (2022)芸術文化の価値とは何か 個人や社会にもたらす変化とその評価. 水曜社

連続ワークショップシリーズ 1

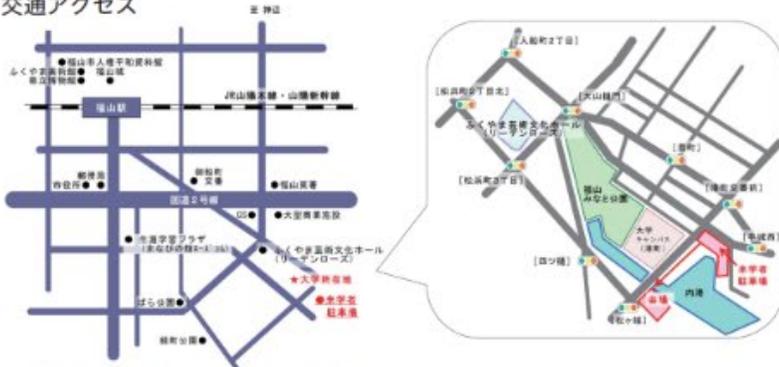
人とつながり アート&ケアに出会う

2024年9月28日(土)・10月5日(土)・10月19日(土)

@ 福山市立大学 xxxxx

昨年、「これからの子育てに安心・安全を感じるためのアートを活かしたワークショップ」を一般の方にも参加していただくとうバージョンアップした新企画。妊婦さんとパートナー、子育て中の方、アート&ケアに関心を持つ方々、新施設の見学も兼ねてご参加ください。

交通アクセス



中国バス：「手城入口」下車 徒歩2分

中心部循環路線まわローズ：「リーデンローズ入口」下車 徒歩10分

来学者駐車場：大学から市道福山港沖野上線を挟んで東側

※駐車スペースには限りがあります。なるべく公共交通機関をご利用ください

日時	講座名	内容	参加費	定員	講師
9月28日(土)	I 講座全体の説明	芸術文化の価値とケアについて、「芸術文化の価値とは何か」を引用しつつ、今回の講座で何を感じていただきたいか、説明を行い、半構造化アンケートをお願いしたい。	無料		
	II 自転車発電で電気をつくろう	自分だけのオリジナルの照明をつくり、自転車発電で光らせてみます。普段何気なく利用している電気やエネルギーについて、体験しながら楽しく学んでみませんか？ ※作ったランプはお持ち帰りいただけます	1,500円/組	10組程度 (※一人でも可)	大谷 悠 (福山市立大学 都市経営学部 講師) 空き家・空き地を生かしたまちづくりについて、日欧の実際の現場で活動しつつ都市研究を行っている。
	III 音楽づくりを気軽に楽しもう	無作為に発せられる音に合わせて意図的に音を重ね、「音楽」をつくっていきます。楽譜通りに取ったり、鍵盤楽器を演奏したりする能力は不要で、誰でも参加できます。「正解」も「失敗」もない音楽づくりを楽しみましょう。 ※自分の音楽を録音してお持ち帰りいただけます	無料	10組程度 (※一人でも可)	古山 典子 (福山市立大学 教育学部 教授) 音楽教育、音楽科教育。共著に『おんがくのしくみ』(教育芸術社)、『音楽を学ぶということ』(同)など。
10月5日(土)	I 絵本の世界を愉しもう	絵本は読む人(子ども・大人)によって様々な楽しみ方があります。絵本の世界にゆったりと入り、参加者の皆さんと語り合いながら、絵本の世界を楽しみ、明日からの日常を心豊かに過ごす喜びを共有してみませんか？ ※お気に入りの絵本を1冊持参してください	無料	10名程度	池田 明子 (福山市立大学 教育学部 教授) 保育学。幼稚園教諭として長く保育現場に勤務し、子どもと共に絵本の世界を楽しんできた。
	II 背守刺繍で想いを伝えよう	背守刺繍とは、江戸時代から伝わる、背中に(縫い)目を作ることで魔物から子どもの命を守るために考案された「おまじない」。VUCAの時代を生きる私たちも、刺繍に託して安心を自分と誰かに届けてみよう。	無料	10名程度	正保 正恵 (福山市立大学 教育学部 教授) 家族生活教育、家庭科教育。共著に『家族生活の支援—理論と実践—』(建帛社)、『助産ケアの基本』(日総研)など。
	III 何気ない日常を想起しよう	「日常記憶地図」(サトウアヤコ)という手法を用いて、参加者のみなさんの懐かしい日々のささやかな記憶を想起します。自分の記憶に身を委ね、他者の記憶と思いがけず重なり合う空間を楽しみましょう。	880円/人	10名程度	宮前 良平 (福山市立大学 都市経営学部 講師) 社会心理学。被災した写真の洗浄・返却活動を通じて、記憶や想起が人生に与える意味について研究している。
10月19日(土)	I 絵でコミュニケーションしよう	絵は絵心や美的センスを気にする人もいますが、ここでは不問です。絵によるコミュニケーションという非日常的な体験を味わう中で、自身や他者の価値観を知り相互理解を深めることを目的としたプログラムを実施します。 ※誰でもよい雑誌等(絵や写真付)をご持参ください(ない場合は不要)	無料		山内 加奈子 (福山市立大学 教育学部 講師) 臨床心理学。子どもから高齢者まで幅広い年齢層の人を対象に科学の視点からこころを考えてきた。
	II みんなで楽しむ造形遊び	この造形ワークショップでは、身体を働かせながら共同して材料を並べたり、つなげたり、重ねたりする造形遊びの活動を通じて、みんなで創り出していく喜びを共有体験します。	無料	10組程度 (※一人でも可)	渋谷 清 (福山市立大学 教育学部 教授) 美術教育。「造形あそび」の要素を取り入れた表現教育をワークショップや公開講座等で実践展開している。
	III 振り返って	講座から学べたこと・変わったこと・これから動き出したいことを語り合っシェアして、もしかしたら、共同で来そうなことを考える。	無料		

I [10:00-11:30] II [12:30-14:30] III [14:40-16:40]

お申込・詳細:

右の QR コード、または下記 URL から
<https://forms.office.com/r/XJDTzxqQik>



※本ワークショップは研究の一環でもあるため、アンケートやインタビューのご協力をお願いすることがございます。個人が特定されることがないように配慮しています。

背守刺繍で想いを伝えよう

正保 正恵

(専門：家族生活教育、家庭科教育)

WSの概要

テーマ「背守刺繍で想いを伝えよう」

実施日:2024年10月5日(土)

所要時間:2時間

募集した参加者:10名程度

実際の参加者:10名

準備した物:刺繍用布、糸、刺繍枠など

実施者の狙い:背守刺繍とは、江戸時代から伝わる背中に(縫い)目を作ることで「魔物」から子どもを守るための「おまじない」。不安の時代を生きる現代においても、刺繍を通して安心を感じる。

背守刺繍とは...

背中を守る

- 医学の知識や技術が乏しかった頃、生まれたばかりの命は失われやすく、人びとはさまざまな形で祈りの「しるし」を産着や祝い着に付けた。産着は単なる体を守る衣類ではなく、むきだし之魂を守る「キモノ」だったのだ。
- 魔物は背中から忍び寄る。あるいは、魂は背中から抜けやすい。人々はそんなふう考えた。そしてキモノには背に一本の縫い目があり、その背中「目」が魔物をにらんで退散させる。そう、目には力がある。
- ところが、幼いこどもの小さなキモノには、背中に縫い目がない！そこで、魔物を睨む目として縫い付けられたのが「背守り」だった。



- 単純な縫い取りや房、小さな布切れを縫い付けただけのもの、華麗な刺繍、押絵になったもの…。豪華な晴れ着あり、質素な普段着あり。「背守り」は時代や地域、人によって、呼び方、その方法や語られる意味など、実に様々だ。しかし、そこには等しく子どもが健やかに育つように願う母の気持ちが込められている。

- 下中菜穂 『【背守り】練習帖』 エクスプランテ 2010年 pp.8-9



魔を祓う力　生きる力

- 子どもを産み育てる。それは深い喜びであるとともに大きな不安をともなう。子どもが病気になった時、自分にできることと云ったら、回復を祈るしかない…。医学や科学が発達した今でも、命のもろさ、危うさ、不思議さは、その瀬戸際では、なんら昔と変わらないのかもしれない。
- 縫い目に魔物を睨む力をみた祖先たちの気持ちに寄り添いながら、今では意味が忘れられた風習や行事、模様を読み解いてみよう。そこには彼らがどんなものに「力」があると考えていたのか、人生の生老病死とどう付き合ってきたのかが見えてくる。



- それらを古い迷信と片づけてしまうのは簡単だが、その中には深い自然の観察と、命に対する洞察力が含まれているのではないか。
- 人間のなかの「生命力」を沸き立たせる力。それがどこからやってくるのか。私たちは未だ、それを解明したわけではなかったのだから。
- 下中菜穂『【背守り】練習帖』エクスプランテ 2010年 pp.20-21
- まして、新型コロナウイルス感染症や豪雨などの自然災害が続く昨今の中でお産を控える皆様には、決して古いこととは思えない不安をお持ちなのではないでしょうか。



正保 正恵 著
前野いずみ

おも
**想いを伝える
布仕事**

背守り刺繍
ユニバーサルファッション

大修館書店

2024年9月に出版しました。
想いを具体的なものに
託し、誰かのために縫
うことが相手も自分も
ウェルビーイングにす
る、ということを強調
しています。

WSの様子



感想

- 誰かを想いながら集中できる時間は日常生活にないためと音いと思いました。
- 作業中は無心でありながら自分と向き合う時間でもあり、様々なことを考える時間となりました。
- 作業しながらイメージを膨らませ、淡々と作業していく時間自体が心に充実感をもたらしてくれた。
- このようなおまじないを知らなかったのでぜひ話を聞き体験したかった。

成果と今後の課題

本実践の下敷きには、Geoffrey Crossick, Patrycja Kaszynska (2022)がある。大学に市井の人々が集まり、議論や一緒に楽しむ機会を上手に作っている場所はまだまだ多くはないだろう。大学と地域の行政が連携した異分野グループによる本実践は、The AHRC Cultural Value Project の研究成果に基づく「個人の内省」、「アイデンティティ」、「主観的幸福感」などの効果を見出した。地域の子育て家族支援をめざした本実践から、副次的な成果も見られ、真の学びを生み出す大きな意味が見出された。今後もアートとケアが出会う、大学発のアートの場をさらに展開させていきたい。

引用文献・謝辞・付記

Geoffrey Crossick, Patrycja Kaszynska (2022) 『芸術文化の価値とは何か一個人や社会にもたらす変化とその評価』 水曜社
東京藝術大学 Diversity on the Arts プロジェクト, 坂口恭平他(2022) 『ケアとアートの教室』 左右社

謝辞

本研究を進めるにあたり、ネウボラ推進課、WSにご参加いただいたみなさまに心よりお礼申し上げます